

2026年度熊本県立北稜高等学校人権教育講演会 当日計画（案）

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 高谷和生

1 目的

長崎被爆者・語り部の方の「生の被爆体験」を聞くことを通して、原爆の惨禍や戦争の悲惨さ、地域の戦争実相を知り、平和の尊さを自分に関係のあることとして学ぶとともに、他者の思いを共有しようとする態度を育成する。

また、令和6年10月8日に日本原水爆被爆者団体協議会の2024年ノーベル平和賞受賞に際し、「ノーモア・ヒバクシャ」「核兵器廃絶」を考える機会とする。

2 日時 令和8（2026）年10月13日（火） 14:15～15:30

3 会場 県立北稜高校 体育館

4 講師 長崎被爆者・語り部 浦田藤枝（97歳・岱明町在住）さん
くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

5 講演 「長崎被爆証言会と紙芝居 ～伝えてきた私の長崎被爆体験～」

（1）開会、日程紹介、講師紹介等 ……14:15～14:25

（2）講話1「大浜飛行場・熊本の空襲と長崎原爆」 ……14:25～14:45

くまもと戦跡ネット 高谷和生

昭和20年5月大浜飛行場空襲、都市空襲理論、全国に広がる大都市等への空襲、小倉から第二目標の長崎へ、模擬原爆パンプキン爆弾と第三の原爆投下へ

（3）講話2「伝えてきた私の長崎被爆体験」

……14:45～15:15

証言者 浦田藤枝さん

※長崎純心高等女学校二年時に被爆

紙芝居上演「長崎原爆被害のおはなし」

たまな地域高校生ピースボランティア第二期生

（4）まとめ、質疑 ……15:15～15:25

くまもと戦跡ネット 高谷和生

（5）謝辞等、閉会 ……15:25～15:30

6 その他

□講演会終了後は感想記入とともに、希望者には「平和の紙風船」メッセージづくりを行う。作品は校内等で紹介・展示する。



□純心高女時の浦田さん

□浦田藤枝さんの証言

令和7年8月23日



□平和の紙風船の展示 令和7年8月



連絡先

□くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷 和生

〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5

高谷個人携帯 090-1513-5528

高谷Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp

HP URL <http://www.kumamoto-senseki.net/>

令和 7 年(2025 年) 11 月 18 日



「平和の大切さ 学び、考え続ける」

玉名市の北陵高 2、3 年生でつくるグループ「たまな地域高校生ピースボランティア」(8 人)は 7 日、同高の文化祭で活動を発表し、平和の大切さを生徒や来校者に訴えた。

グループは今夏、戦争や平和について学び、継承してもらおうと市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)の呼びかけで発足。これまで、長崎で被爆した浦田藤枝さん(96)＝同市＝に体験を聞いたり、被爆体験の証言会の運営を手伝ったりした。

この日、生徒はセーラー服、もんぺ、わりのカーゴパンツ、白はちまきを着用し、戦時下の女学生の服装を再現し

北陵高生ピースボランティア報告会

てステージに登場。これまでの活動を振り返り「戦争中は大人だけでなく、子どもの生活も戦争一色だったと知った。二度と戦争を繰り返してはいけない」と述べた。その後、浦田さんの体験を題材にした紙芝居を朗読させた。生徒の発表を聞いた浦田さんは「高校生が平和への思いを受け継いでくれてうれしい」と笑顔。3 年の平川透子さんは「全国各地の戦争に関する資料館に行くなどし、学びを深めたい」と語った。

グループは今後、市内にあった軍用の大規模飛行場など、地域の戦争の歴史を調べ、伝える活動に取り組む予定。(遠山和泉)

くまもと戦後 80 年の取り組み
 □被爆体験証言会の紹介
 「仲良くすれば戦争起きず」
 2025 年 8 月 31 日 熊日記事
 □たまな地域高校生ピースボランティア紹介
 「平和の大切さ学び、考え続ける」
 2025 年 11 月 18 日 熊日記事

令和 7 年(2025 年) 8 月 31 日 日曜日

「仲良くすれば戦争起きず」
被爆者の浦田さん 玉名市で体験語る



自身の被爆体験を語る浦田藤枝さん＝23 日、玉名市

15 歳の時に長崎県で被爆した浦田藤枝さん(96)＝玉名市＝の被爆体験を聞く会が 23 日、玉名市の市歴史博物館(コヒナ)であり、地元住民ら約 80 人が、戦争の悲惨さや平和の尊厳について考えた。くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク(高谷和生代表)と同館の共催。

浦田さんは「私の長崎被爆体験は、生き抜いた 80 年」と題して講演。長崎純心高等女学校に通っていた頃の写真や、当時の服装を再現した人形を見せながら、被爆で家族や同僚を亡くした経験を話した。最後に、「仲良くすればいいは起らない」と訴えかけた。浦田さんの被爆体験を紙芝居にまとめた、源心館高 4 年の島田朋子さんによる読み聞かせもあった。越智さんは「自分が経験していないことを表現するのはよく悩んだが、被爆者の思いを理解しようと努力する姿勢が大切と語った。熊本県原爆被害者団体協議会の二世部会・共同代表の原田俊(さん)(9)＝熊本の北陵高＝による講演は、北陵高の生徒による紙風船作りや、クイズなどもあり、ワークショップもあった。高谷代表は「地域の中で戦争の経験を語り継ぐ第一歩になればうれしい」と語った。(遠山和泉)



令和 8 年(2026 年) 8 月 28 日

平和の尊さ 学ぶ夏

玉名ルーテル学童クラブ

玉名市の玉名ルーテル学童クラブは 19 日、戦争について学ぶ「平和の学び」を開き、小学生約 50 人が絵本や紙芝居の読み聞かせなどを通して、平和の尊さを学んだ。

クラブでは毎年 8 月、戦争や平和に関する活動に取り組んでおり、くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワークの高谷和生代表(玉名市)に講師を依頼した。北陵高(玉名市)の生徒 6 人をつくるグループ「たまな地域高校生ピースボラ」が、平和の大切さを語り、世界へ平和のメッセージを書いた紙風船を作る児童ら＝19 日、玉名市



くまもと戦後 81 年

令和 8 年(2026 年) 7 月 22 日 水曜日

平和への思い 受け継ぐ

北陵高生、2 期目の活動始まる

玉名市

玉名市の北陵高の生徒でつくるグループ「たまな地域高校生ピースボランティア」の 2 期目の活動が 17 日、始まった。メンバー 8 人は、本年度、市内で 2 日間の被爆体験証言会の運営を手伝うなどして学ぶ。戦争について学び、平和への思いを継承してもらおうと、市民団体「くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク」(高谷和生代表)の呼びかけで発足。昨年は、市内で 2 日間の被爆体験証言会を手伝った。同高の文化祭で平和の大切さを伝える活動も行われた。

この日は、15 歳の時長崎で被爆した浦田藤枝さん(96)＝玉名市＝が、昨年から活動に参加している生徒と一緒に、自身の被爆体験を題材にした紙芝居を朗読した。

19 45 年 5 月、米軍による度々空襲を受けた大倉飛行場。玉名市に隣接する説明などがあった。3 年の高木恵菜さんは「戦争を繰り返してはいけない」と思いを語り、受け継ぎたいと力を込めた。(遠山和泉)



戦後 81 年
 たまな地域高校生ピースボランティアの紹介
 □2 期目の活動始まるの紹介
 「平和への思い 受け継ぐ」
 2026 年 7 月 22 日 熊日記事
 □玉名ルーテル学童クラブでの取り組み
 「平和の尊さ 学ぶ夏」
 2026 年 8 月 26 日 熊日記事